

事業報告令和3年度 教育事業
 全国高校生体験活動顕彰制度
 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

令和3年7月15日(木)～30日(金)
 【対象】高校2年生
 【場所】国立信州高遠青少年自然の家
 高遠町内

1. 趣旨

高校生が身近な地域についての課題を発見し、オリエンテーション合宿を含む様々な体験活動を通して課題解決能力を身に付け、主体的に行動できる人材を育成する。また、地域について学び考えていく中で地域の良さを再発見し、郷土愛を育ませる。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和3年7月15日(水)、7月24(土)、7月25日(日)、7月30日(金)

(2)参加者 9名

(3)日 程

7月15日(木) ガイダンス 会場：高校

7月24日(土)、7月25日(日)

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18					
24日(土)	学校集合	バス移動	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」 高遠町散策 講師：北原紀孝氏(高遠郷土研究会会長)		移動 (持参弁当)	講話 「地域の実践」 防災講習 (上伊那広域連合)	講義・演習① 「地域理解①」 地域学習 講師：横山俊一氏(信州大学研究員)		講義演習② 「課題解決の基礎①」 FW①のまとめ	FW②の計画	片付け	バス移動	学校解散			
25日(日)	学校集合	バス移動	講義演習② 「課題解決の基礎①」 高遠町の魅力・危険箇所の調査 *適宜観光客・地元の方々へインタビュー	フィールドワーク② 「地域の課題の探究」 伊那市地域おこし協力隊の方とお話	まとめ に向けて調査	バス移動	昼食 (持参弁当)	講義・演習③ 「地域課題の探究」 各グループ 得た情報の まとめ		観光防災マップ の作成	発表準備	発表 講評	発表①	片付け	バス移動	学校解散

7月30日(木) 「行動計画の基礎」、「発表②」、「実践活動のためのガイダンス」 会場：高校

3. 企画運営のポイント

- ・高校生に探究の基本的な考え方を理解させながら探究サイクルを体験させることで、今後の実践活動がより充実したものになるような機会とする。
- ・参加した高校生と地域の実践家との交流の機会を提供し、高校生が住む地元でどのような取り組みが実践されているのかを学び、そこで自分に何ができるのかを考える機会とする。

4. 参加者の声と引率者アンケート(抜粋)

- ・高遠の町は車では通ったことはもちろんあるけど、歩いてみると気が付くことが多くてとても楽しかったです。
- ・少し目を凝らすだけで、普段見ている景色の中に危険なところがあるもんだなあと思った。
- ・高遠の良さを知ることができたし、少しでも町を活性化できたらいいなあと思います。
- ・実際に道具や AED などを使って本番を意識してやることができた。消防士には埋められない7分を埋められるようにしたい。
- ・非常に暑い中かなり歩いたのでとても疲れた。しかし、その分いろいろな場所を発見することができてよかった。

- ・自分たちが調べたことがうまくまとめられたか心配だけど、しっかり考えることができてよかった。
- ・地域課題を解決したいです！！
- ・最後のまとめ、成果がしっかりまとめられていきました。普段と違う一面が見えて頼もしく感じました。いつもよりしっかりとした発表で感動しました。企画していただきありがとうございました。コロナ禍で思うような活動ができませんでしたが、暑い中学生もよく頑張ったと思います。2日間ありがとうございました。(引率者)

5. 事業中(7/24,25)の様子

【フィールドワーク①】



【地域の実践】



【地域理解】



【フィールドワーク②】



【地域課題の探究】



【発表①】



6. 成果と課題

(1)アンケート結果 回収10名(高校生9名、引率者1名)

事業全体を通して	満足：6名	60%
	やや満足：4名	40%
	やや不満：0名	0%
	やや不満：0名	0%

(2)成果と課題

○参加者の多くから「普段何気なく過ごしていた地域の魅力に気づくことができた」という感想が聞かれ、地域の良さの再発見をすることができた。

- 「やや満足」と回答した参加者の4名のうち3名が体調不良や部活の大会等で一部の日程を欠席した参加者であった。4日間という日程で実施したため、全日程を消化できなかったことが参加者にとって心残りであったと思われる。
- 今年度はコロナウイルスのためにメインのカリキュラムの日程を日帰り2日間で実施したが、日程が非常にタイトになってしまった。カリキュラムの最低実施時間があるにしても、もう少し余裕のある予定を組めなかったか検討の余地があった。